IMEMGS

Research Papers : Muslims in Japan　No.1

日本のモスク調査　1

－イスラーム礼拝施設の調査記録－

店田　廣文

岡井　宏文

IMEMGS

Institute for Multi-ethnic and Multi-generational Societies
WASEDA UNIVERSITY, Tokyo, Japan

March, 2008

早稲田大学人間科学学術院
アジア社会論研究室

〒359-1192　所沢市三ヶ島 2-579-15

序

本調査記録は、日本学術振興会科学研究費助成による調査研究「在日ムスリムの社会経済的活動と宗教的ネットワークに関する調査研究」の成果の一部として刊行するものであり、2005 年 8 月から 2008 年 3 月にかけて実施したモスク調査記録である。調査自体は、2005～2006 年度の日本学術振興会科学研究費助成による調査研究「関東大都市圏における在日ムスリムの社会的ネットワークと適応に関する調査研究」(基盤(C),課題番号 17530394)から開始したものであり、その成果を引き継いで今回刊行することとした。

現在進行中の調査研究では、日本全国のモスクやムサッラーなどのイスラーム礼拝施設の調査に加えて、在日イスラム教徒（ムスリム）を対象とする社会経済的活動や教育問題などに関するフィールドワークを実施している。その全体像については、本調査研究の 2008 年度最終報告書でまとめる予定である。このうち、モスクやムサッラーなどのイスラーム礼拝施設の調査においては、本報告書に記載した礼拝施設のほかに、新設された仙台モスク、札幌モスク、水戸モスク（2 カ所)、いわきモスク(福島県)、結城モスク(茨城県)、春日井モスク（愛知県)、および、従来から存在する大塚モスク(東京都)、八王子モスク(東京都)、海老名モスク(神奈川県)、所沢モスク(埼玉県)などについても調査を実施しており、これら礼拝施設についても情報をまとめたうえで、第 2 弾として調査報告書を作成する予定である。

この調査記録は、現在も継続している在日ムスリム調査や、人間文化研究機構「イスラーム地域研究」における「アジア・ムスリム・ネットワーク」に関する調査研究の基礎的な参考資料としてまとめたものである。今回の調査にあたっては、在日ムスリムの方々、各地域のモスク管理者の方々など多くの人たちから多大なご協力をいただいた。改めてご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げる次第である。

2008 年 3 月

早稲田大学人間科学学術院　　店田　廣文

電子メール：　htanada@waseda.jp

目次

目次.....1
1.浅草モスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 9 日) 3
2.東京インドネシア共和国学校(第 1 回調査日　2005 年 8 月 12 日) 7
3.東京ジャーミイ(第 1 回調査日　2005 年 8 月 8 日) 11
4.マッキーマスジッド　トウキョウ(第 1 回調査日　2005 年 8 月 6 日).....15
5.伊勢崎モスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 27 日) 19
6.クバモスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 26 日).....23
7.足利モスク(第 1 回調査日　2006 年 3 月 10 日) 27
8.バーブル・イスラム・モスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 26 日).....31
9.渚ムサッラー(第 1 回調査日　2006 年 3 月 11 日).....35
10.ビラールモスク　ナガノ(第 1 回調査日　2006 年 3 月 12 日) 40
11.新潟モスク(第 1 回調査日　2006 年 8 月 28 日) 44
12.名古屋モスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 10 日) 50
13.岐阜ファーティフモスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 12 日).....55
14.富山モスク(第 1 回調査日 2005 年 8 月 13 日).....59
15.松山イスラーム文化センター(第 1 回調査日　2005 年 8 月 20 日) 63
16.新居浜マスジッド(第 1 回調査日　2005 年 8 月 21 日) 67
編者・執筆者・調査参加者一覧.....71

1.浅草モスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 9 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：浅草モスク

外国語名：ダルル・アルカム・モスク

住所

〒111-0025

台東区東浅草

連絡先

電話（代表）：03-3871-6061

Fig.1　モスク全景

Fig.2　3 階男性用礼拝室

Fig.3　2 階女性用礼拝室

Fig.4　販売図書

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2000 年

設立の経緯

浅草は日本の中でも文化的な土地であり、イスラームの文化センターとして、浅草の寺院を訪れた人（日本人も）に来てもらうために、設立した。

＊備考：1998 年に行徳にモスクを建てた（当時、行徳には多くのムスリムがいたが、ムサッラーなども無かった)。その後に浅草モスクを設立した。

宗教法人認可の有無

進行中（2005 年 8 月 9 日時点）

宗派・系統

無し

所属母団体

イスラミック・サークル・オブ・ジャパン（ICOJ）

組織形態

イマーム：任期 2 年。モスクの責任者

アミール：任期 2 年。　ICOJ のプレジデント

それぞれの選ばれ方：２年に１度、　ICOJ のメンバーが決める。

＊備考：モスクの活動プログラムなど、モスク内の重要な決定および責任はイマームが担う。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額

土地＋建物　7500 万円

名義

ICOJ のメンバー　4~5 人。

設立に至る費用工面

個人：大半は個人の寄付。イマームも含めた寄付。

団体：なし

出資の呼びかけ：出版物の発行。

出資団体の有無

無し。

出資団体の詳細

無し。

モスク維持費捻出方法

寄付で賄っている。

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：鉄筋

建て坪：不明

部屋数：6 部屋

階数：5 階建て

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

ファジュルー21：30 まで。毎日。

共有財（耐久消費財など）

ソファ、デスク、テレビ、ビデオデッキ、扇風機、ミンバル（２つ）、本棚、コーラン、書籍（アラビア語、日本語）、ホワイトボード、コート掛け（ハンガー）、椅子、掃除機、エアコン（業務用埋め込みタイプ）、冷蔵庫、礼拝時刻表、飲料水タンク、 長机、PC（使用されていない）

＊備考：PC は、以前は使用されていたようだが、現在は使用されていない。

＊備考：書籍は閲覧のみ可能なものと、借りる事のできるものがある。

「場」と「機能」充実度

礼拝スペース（男女別々の階）

ウドゥーのための足浴場（男女別々の階）

死体の洗浄スペース（1 階）

事務所（中 2 階）

イマームと家族の居住スペース（5 階）

PC を利用した教育設備（4 階・休止中）

子供向けコーランの勉強会スペース（2 階）

女性向け講習会スペース（2 階）

トイレ

＊備考：1 階は簡素なデスクとソファ、テーブルと大型テレビなどがあり、中 2 階が事務所。2 階は女性用の礼拝所兼教育スペース、3 階に男性用礼拝所がある。4 階は PC を利用した教育用スペースがあるが、現在は使用しておらず、5 階はイマームと家族の居住スペースになっている。

＊備考：駐車場は無いようだが、隣にコインパーキング建設中（2005 年 8 月現在）

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝（毎日）
②金曜のジュムアの礼拝（週 1 回）
③葬儀・死体の洗浄（不定期）
④ニカー（結婚証明の手続きも）（不定期）
⑤子供向けのコーラン教室
⑥女性向けイスラーム講習会
⑦料理教室
⑧教授、アーリムが外部から来て講議

土地選定の理由

浅草は日本においても文化的な場所だった。イスラーム文化センターとして、適した場所だったから。

＊備考：行徳モスク・・・行徳には以前はムサッラーも無く、祈る場所が必要だった。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）
：10〜12 人
金曜礼拝者数：20 人
うち日本人 2〜3 人（女性）
＊備考：もともと浅草モスクは礼拝所よりも文化センターとしての比重が大きい。従って礼拝者はあまり多くない。

国籍構成

パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、マレーシア、インドネシア

おおよその滞在資格構成

会社員、スキルワーク、学生
＊備考：パキスタンやバングラデシュの団体も訪れる。

2.東京インドネシア共和国学校（第 1 回調査日　2005 年 8 月 12 日）

1.基礎情報

正式名称

日本語名：東京インドネシア共和国学校

外国語名：スコラ・リパブリック・インドネシア・トーキョー

住所

東京都目黒区目黒 3-6-6

連絡先

電話（代表）：03-3711-8842

HP：現在は未開設。今後開設予定（2005 年 8 月 12 日時点）

Fig.1　モスク全景

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

1962 年（旧校舎）、1975 年（現在の校舎）

設立の経緯

元々はインターナショナルスクールでは不十分との声から、大使館の空き部屋を利用して大使館の子供向けに教育をしていた。スペースが足りないなどのニーズから、1962 年、インドネシア大使館の子供向けに、大使館の婦人会が中心となり、幡ヶ谷にある東京インドネシア女性組織を仮校舎にして、「インドネシア教育園」を設立。翌年「東京インドネシア学校に改称する。1965 年には高校も設立。同年世田谷のインドネシア大使館宿舎に移転した。1970 年、インドネシア大使館宿舎はインドネシア大使館により売却、南馬場の元三井銀行跡地に移転する。翌年、目黒の現校舎が建設され、現在に至る。

宗教法人認可の有無

なし

宗派・系統

なし

所属母団体

大使館

組織形態

イマーム：不在。ジュムアのスピーチは順番制。数人のグループからなり、信仰心の厚い、イスラームの知識のある人が担う。

アミール：不在

2-2.土地・建物の情報

土地

建物

購入額

不明

名義

インドネシア大使館

設立に至る費用工面

インドネシア大使館、インドネシア政府、日本からの戦争借款

出資団体の有無

なし

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

生徒からの月謝、政府や大使館からの資金

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：鉄筋

建て坪：不明

部屋数：教室数＝23 部屋

階数：2 階

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

金曜のジュムアのみ。他の時間は体育館として使用。ただしラマダーンの期間中は体育館を終日解放。

＊備考：ラマダーンの期間中は、来訪者が多いので校庭、校舎から溢れかえるほど集まることも。来訪者の多くは近隣の会社で働いている人や、近郊の人。

共有財（耐久消費財など）

礼拝スペース：ミンバル、マイク、スピーカー、カーペット（礼拝時にのみ敷かれる）、駐車場（校庭）、下駄箱

「場」と「機能」充実度

ウドゥーのための水場（校内のトイレに併設）、礼拝スペース（体育館）、駐車場（校庭）

モスクが行っている活動

①金曜のジュムア：週 1 回

②ラマダーン時の礼拝

土地選定の理由

不明

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

平日：なし

金曜礼拝者数：150〜200 人

うち日本人 3〜5 人

固定メンバー：80〜90%

流動メンバー：10〜20%

＊備考：女性の礼拝は禁止されている。

国籍構成

インドネシア、マレーシア、ブルネイ、バングラデシュ

おおよその滞在資格構成

職業構成

会社員、留学生、研修生

3.東京ジャーミイ（第 1 回調査日　2005 年 8 月 8 日）

1.基礎情報

正式名称

日本語名：東京ジャーミイ

外国語名：Tokyo Camii

住所

〒151-0065

東京都渋谷区大山町

連絡先

電話（代表）03-5790-0760

e-mail:tokyocamii@hotmail.com

HP:http://www.tokyocamii.org

Fig.1　モスク全景

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2000 年 6 月（但し 1938ー1984 年まで、東京回教寺院）

設立の経緯

1917 年のロシア革命後、ロシア在住のトルコ人が東京に定住。マハッレ・イスラミッイエ協会を設立する。日本政府の援助の下に東京回教寺院を建設する（1938 年）。老朽化が進み、1984 年に閉鎖。1986 年には取り壊される。跡地はマハッレ・イスラミッイエ協会から、東京トルコ人会（1953 年設立）に移り、ジャーミイ再建を条件に、トルコ共和国に寄付される。トルコでは 1997 年に東京ジャーミイ設立基金が設立され、トルコ全土から寄付金を募集する。寄付金以外にも、建設資材（水、セメント、鉄筋以外）や、本土から 100 人近い建築や芸術の職人が送られる。1998 年 6 月 30 日に開始されたジャーミイ建設事業は、日本・トルコの関係者の努力の結果、2 年間で完成。2000 年 6 月 30 日に、盛大な開館式が行われる。

宗教法人認可の有無

有り。東京・トルコ・ディヤーナト・ジャーミイ

宗派・系統

スンニ

所属母団体

なし

組織形態

イマームは定期的に交代。理事会による合議で運営。

2-2. 土地・建物の情報

土地

建物

総額で 11ー12 億円くらい

名義

設立に至る費用工面

個人

団体

どのように出資を呼びかけたか

追記：東京ジャーミイ建設基金（1997 年）は、トルコ共和国宗教庁長官メフメット・ヌーリ・ユルマズ氏を総裁として、トルコ全土から寄付金を募集した。日本側のプロジェクト調整役：鹿島建設の伊藤澄男氏、若林明氏。トルコ側のコーディネーター：サミ・ゴレン氏

出資団体の有無

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

トルコ宗務庁と、礼拝時などの個人の寄付（モスク内、礼拝堂前に募金箱を設置）

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式　　鉄筋

建坪

部屋数　5 部屋

階数　　3 階建て

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

ファジュルの時に一度開館。その後閉め、10 時半から最後の礼拝まで。事務室は 10 時から 18 時まで。

共有財（耐久消費財など）

コピー機（2 台）、長机、工芸品、展示品（絨毯、書籍、タイル、壷、花瓶）、テレビ、トイレ、水場（ウドゥー用）、エアコン、マイク（2 個）、掃除機、置き時計、扇風機（6 台）、シャンデリア（以上 4 つは礼拝堂内）、倉庫

「場」と「機能」充実度

1 階　ウドゥー、多目的スペース（講演会や展示会、結婚式場など）、事務所

2 階　礼拝堂、テラス

3 階　礼拝堂（女性用礼拝スペース）

またモスク横に、駐車場。10 台以上分のスペース。

モスクが行っている活動

①訪問者案内（いつでも）

②一日 5 回の礼拝（毎日）

③金曜礼拝（週 1 回）

④イスラムの勉強会（月 1 回）

⑤結婚式（不定期）

⑥結婚証明書の発行（随時）

＊備考：日本の住民票がある場合のみ

土地選定の理由

設立の経緯を参照。

4. 礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）

金曜（土曜）礼拝者数：数百人

うち日本人：6〜10 人

固定メンバー：80%

流動層：20%

国籍構成

トルコ、バングラデシュ、インドネシア、マレーシア、パキスタン、アフリカ

おおよその滞在資格構成

NA

職業構成

日本企業に勤務する者、自営業者、学生が主

4.マッキーマスジッド トウキョウ（第 1 回調査日 2005 年 8 月 6 日）

1.基礎情報

正式名称

日本語名：マッキーマスジッド、トウキョウ

外国語名：Makki Masjid Tokyo

住所

〒124-0011

東京都葛飾区四つ木

連絡先

非公開

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2001 年 8 月

設立の経緯

大山（板橋区）に部屋を借りて礼拝していたが、永続的に利用できるものを求め、寄付を募り、成増にモスクを設立。場所は駅の近くで、周囲に迷惑かからないことを考慮した。線路のそばで元々うるさい場所であったので、人が集まっても問題無いだろうと思われた。キブラの方向なども考えられた。しかし、木造２階建てで狭く、使い勝手が悪かった。また住宅地の中で、隣からクレームが来ていた。2000 年頃から転地先を探し、資金と募金で現在の場所を購入した。面積も広く、駅から比較的近いこと、メッカの方角と建物の構造が一致していたことなどが決め手となった。元々は電子機器工場であり、購入時は廃棄物が散乱していた。廃棄物をリサイクル屋に売り払ったのち、各種の改装を行った。ウドゥーとトイレの設置、3 階部分に存在した間仕切りの撤去、2 階、3 階のトイレの撤去（不浄）、内装の変更、3 階のキッチン設置、外壁のペイントなどを行った。作業は、有志がモスクで寝泊まりしつつ行った。

宗教法人認可の有無

無し。申請の準備は行っている（2005 年時点）。

宗派・系統

無し

所属母団体

モスクで行われる活動はタブリーギー・ジャマーアトの活動がメインだが、活動の参加者以外も多数訪れる。「モスクとして」所属している団体はない。

組織形態

アミールと合議制の複合。

アミールの任期は１ヶ月。合議の参加は自由。毎週（日曜？）会議。アミールの選定や日常の運営方針を決定する。全国のタブリーギ・ジャマーアトが一ヶ月に１回、一ノ割のセンターで代表者らにより会議を行う。そこで、タブリーギ・ジャマーアトのスケジュールや海外との連絡（海外からのジャマーアトの派遣要請をしたり、各モスクへの海外ジャマーアトの派遣日程の調整等）を行う。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額

土地+建物＝総額 6200 万円

名義

複数人で取得。

設立に至る費用工面

個人：個人的な知り合い（理解のある）。モスクの場合は、ザカートとは別に、寄付を求めることが出来る。

団体：政府系は無し

どのように出資を呼びかけたか：個人的に、モスクの中でも、呼びかけた

出資団体の有無

無し

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

モスクに来ている人達の寄付（金額は自由）。食事、光熱費などを賄う。将来的にイマームを招聘することが出来れば、イマームの給料（生活費）も寄付により賄う予定でいる。

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：鉄筋

建坪：250 平米

部屋数：3 部屋。但し小部屋 2 つ有り

階数：4 階

3. モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

朝、ファジュルの際に開錠、昼は誰でも出入り可能。イシャーの後で、施錠

共有財（耐久消費財など）

トイレ（4 つ）、シャワー（1 つ）、エアコン（7 台）、扇風機（11 基）、本棚（3 つ）、スピーカー、ふとん、冷蔵庫（2 台）、鍋（大小 5 個）、ガスコンロ（2 台）、給湯器（3 台）、礼拝時刻表、洗濯機、物干し台、PC（3 台）。

「場」と「機能」充実度

1 階、ウドゥーのための水場、礼拝堂

2 階、就寝の場、子供のコーラン教室、礼拝スペース（1 階に人が入りきらない際等に使用される。タブリーギ・ジャマーアトの活動を行っている人の為の宿泊の場でもある）

3 階、食事+ジャマーアトの為の部屋、炊事の部屋、礼拝室

4 階、物置兼居住スペース

モスクが行っている活動

①1 日 5 回の礼拝（毎日）

②金曜礼拝（週 1 回）

③バヤーン（週 1 回）

④ターリーム(Taalim)（毎日 1 回）

⑤土曜日の勉強会（bayan）（週 1 回）

⑥日曜の子供のための勉強会（午前）（週 1 回）

＊備考：クルアーンクラス（2005 年 5、6 月からスタートした。10 人程度の子供が集まる。時間は 1 時間程度）　2007 年現在休止中。

⑦他地域のジャマーアトの世話（不定期）

⑧ガシュト（Gasht）

⑨タシュキール（Tashkeel）

土地選定の理由

設立の経緯を参照

4. 礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）

金曜（土曜）礼拝者数：20ー30（金曜）、

50ー100 人（土曜）

うち日本人：4,5 人

固定メンバー：50%

流動層：50%

国籍構成

バングラデシュ（70%）、パキスタン（25%）、マレーシア、インドネシアなど

おおよその滞在資格構成

職業構成

自営業、会社員、学生

5.伊勢崎モスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 27 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：伊勢崎モスク

外国語名：JAMIA MOSQUE MOHAMMADIA

住所

〒372-0056

群馬県伊勢崎市喜多町

連絡先

電話（代表）:0270-24-4260

e-mail：Isesakimosque@hotmail.com

Fig.1　旧プレハブ製モスクがあった場所に新たなモスクを建設中（2005 年 8 月現在）

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

旧建物：1995 年、新建物：2005 年 3 月施工、10ー11 月完成予定（2005 年 8 月 27 日時点）

設立の経緯

礼拝の場所の確保、ニカー、葬儀、子供の勉強を行うために設立。イスラームを学ぶための、外部のための情報センターにもするため。もともとはアパート内のムサッラーだったが、ニーズが高まった。

＊備考：当初はバングラデシュ人のイマームがいた（設立時ー2003 年）。
現在の H 氏は 2 人目にあたる。

宗教法人認可の有無

なし

宗派・系統

なし

所属母団体

なし

組織形態

イマーム：H 氏。2003 年から前イマームに変わって務める。

合議制：礼拝の後に皆で話し合う。イマームはチェアマンとして参加する。

＊備考：ムハンマド氏がイマームになったきっかけは、前イマームからの依頼。

2-2.土地・建物の情報

土地

8500 万円

建物

以前の建物：不明　　建設中の建物：3200 万円

名義

5 名で取得。

設立に至る費用工面

個人：個人の寄付。日本国内のモスクからの寄付。

団体：なし

どのように出資を呼びかけたか：日本国内のモスクを廻り、サダカを募った。

出資団体の有無

なし

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

礼拝に訪れる人からの寄付

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：鉄筋

建て坪：約 170 平米

部屋数：未定

階数：2 階建て

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

礼拝可能時間：カギはファジュルの時間から空いている（一日中）。

礼拝をしたい時に、誰でも入れる。

建設中のモスクでも同様のシステムを採る予定（2005 年 8 月現在）。

共有財（耐久消費財など）

調査時、モスク建設中のため NA

「場」と「機能」充実度

調査時、モスク建設中のため NA

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝（毎日）

②金曜礼拝（週 1 回）

③土曜礼拝（週 1 回）：イシャーとダルセクルアーンはセットで行われる。

④食事会：（毎週土曜夜）

⑤子供の勉強会（月曜ー金曜日）：対象は幼稚園ー小学校。放課後に行う。

⑥ニカー

⑦葬式

⑧公民館・学校からの見学

土地選定の理由

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

礼拝者：先週の礼拝者数（金曜、土曜以外の合計）：50 人

金曜礼拝：80〜100 人

土曜礼拝：30〜40 人

うち日本人：3〜4 人。時々来る。

固定メンバー：50%

流動メンバー：50%

国籍構成

パキスタン人（60%）、バングラデシュ人（30%）、マレーシア、インドネシア

おおよその滞在資格構成

職業構成

会社員（デスクワーク、工場労働）、自営業、マレーシア、インドネシアは研修や留学生もいる。

6.クバモスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 26 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：クバモスク

外国語名：Quba Mosque

住所

〒374-0024

群馬県館林市本町

連絡先

HP:http://en.icoj.org/

備考：ICOJ のホームページ

Fig.1　モスク全景

Fig.2　モスク裏手入口側より全景

Fig.3　1 階礼拝スペース

Fig.4　1 階礼拝スペース

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2003.2

設立の経緯

市役所の文化ホールを借りて礼拝を行っていたが、2002 年に、衣服工場であった現在の場所へ移動した。一年間は、館林近辺に住むムスリムがお金を出し合い、賃貸の形で場所を借りていたが、工場の持ち主が、銀行のローンを払う事が出来ず、当物件は競売にかけられた。この競売において元の持ち主は物件を購入せず、不動産屋が購入した。そしてこの不動産屋を通じて、モスクが当物件を購入した。モスクとして使用するために購入された当物件は、カーペットはもとより看板の設置や、ガス回りなどある程度改造が施されている。

宗教法人認可の有無

有り(名称：Quba Mosque)

宗派・系統

所属母団体

ICOJ

組織形態

イマーム：イマームの仕事をする人がいる(2,3 人)。3 ヶ月間イマームが来日する。

アミール：ICOJ 全体のアミールが存在し、全体を統括している。館林モスクに専従しているわけでは無い。

合議制：それぞれの役割を一ヶ月に一回決める(立候補制)。また全員が協議し管理者を決める。

その他：管理人

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

＊備考：購入費用・・・土地＋建物 合わせて 3000 万円

名義

土地

建物

名義：4,5 人で取得　現在 ICOJ 名義に変更する申請を行っている。

設立に至る費用工面

個人：全国のムスリムに寄付を募った。

団体：なし

どのように出資を呼びかけたか：ICOJ のメンバーが 5,6 人でメンバーを作り、モスクや、会社を訪ねた。

出資団体の有無

なし

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

お祈り後、週 5 回金曜日に寄付を集める。金額は決まっていない。これにより、光熱費などを賄っている。

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式： 鉄筋

建坪：375～400 ㎡

部屋数：5 部屋

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

礼拝可能時間：ファジュルからイシャーまで(季節によって変動する)

共有財（耐久消費財など）

コピー機、キッチン用品、シャワー、バス、クーラー、マイク、扇風機、ゲスト用の布団、ホワイトボード、トイレ、ミンバル、ミフラーブ、テレビ

「場」と「機能」充実度

礼拝スペース(男性用・女性用)、ウドゥー、シャワールーム、イマームのための部屋、駐車場(10~20 台)向かいに付属の駐車場があるが、金曜、土曜はお願いして 2,3 台のスペースを借りている。

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝

②集団礼拝

③土曜の礼拝(イシャー⇒バヤーン(ダルセクルアーン)⇒食事)

備考：将来、子供の勉強会を行いたいと考えている。

土地選定の理由

ムサッラーを探していて、たまたまこの物件を見つけられた。100 人程度の人がいたので、広い場所を探していた。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数(トータル礼拝者数—金曜礼拝者数)：50 人

金曜(土曜)礼拝者数：50～60 人（金曜）80~100 人（土曜）

うち日本人　1,2 人(不定期)

固定メンバー：80%

流動層：20%

国籍構成

パキスタン(80%)、インド(2,3 人)、バングラデシュ、ビルマ、イラン(不定期)、マレーシア(イードの時に来る)

おおよその滞在資格構成

職業構成

大半が中古車業、解体業

7.足利モスク(第 1 回調査日　2006 年 3 月 10 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：足利モスク（日本イスラム文化センター足利支部）

外国語名：Masjid Nur

住所

〒326-0846

栃木県足利市山下町

Fig.1　モスク全景

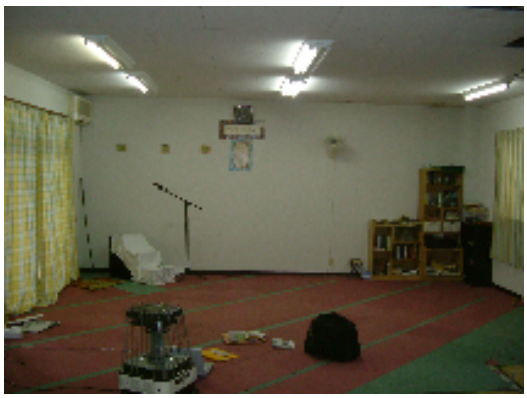


Fig.2　2 階礼拝室

Fig.3　2 階踊り場に設置された水場

Fig.4　モスク裏の専用駐車場

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2000 年

設立の経緯

1995 年に活動を開始した。1998 年、別の場所をレンタル（2 階）し、礼拝などを行っていた。しかし、礼拝に訪れる人が増加したため 2000 年に現在の場所へ（2 階部分のみ）移動した。2003 年に土地と建物を購入した。

宗教法人認可の有無

有り。大塚モスクの支部

宗派・系統

無し。ムスリムであれば誰でも。

所属母団体

大塚モスク

組織形態

イマーム：任期 3 ヶ月。外国から専従のイマームを面接。臨時もあり。

アミール：1996 年から。N 氏。大塚のコミッティーにも参加している。

秘書、事務、経理、留学生（大学及び専門学校）

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額

土地・建物合わせて 2000 万円

名義

足利モスク

設立に至る費用工面

個人：:栃木のムスリムがメイン。全国（関東の方）から寄付。

団体：大塚モスクがノウハウ面で協力

どのように出資を呼びかけたか:お祈りに来た方に呼びかけた。境町、新安城、海老名などで寄付を呼びかけた。

出資団体の有無

無し

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

月に一度、寄付を呼びかけている。2000 円（学生は 1000 円）

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：鉄筋

建坪：82 坪　駐車場 52 坪

部屋数：1 階 3 部屋（うち 2 部屋で礼拝）、2 階 1 部屋

階数：2 階建て

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

24 時間使用可能。宿泊（タブリーギ・ジャマーアトは可）、イフティカーフは可。金曜の昼に、アザーン可。

共有財（耐久消費財など）

ほぼムスリムから提供されたもの。ストーブ（2 個）、給水タンク、時計、ファン、マイク、ホワイトボード、掃除機（1 台）、スピーカ（2 台）、洗濯機、エアコン（5 台）、シャワー室（可動：1 つ）、冷蔵庫、コンロ、炊飯器（以上 3 つはジャマーアト用）。

「場」と「機能」充実度

2 階は礼拝と会議、タブリーギ・ジャマーアトのための宿泊、ラマダン明けの食事の場

1 階はウドゥーの場（シャワー、トイレ）、キッチン、駐車場

モスクが行っている活動

①金曜礼拝（週 1 回）

②日曜礼拝（週 1 回）

③ラマダン（年に 1 回）

④イードルアドハー（年に 1 回）

⑤ラマダン明けの日曜の食事会（期間中、週 1 回）

⑥1 日 5 回の礼拝（毎日）

⑦3 日間、40 日、4 ヶ月のアッラーの道）

＊備考：タブリーギ・ジャマーアトに参加しているムスリムのみ

⑧日曜のバヤーン（週 1 回）

土地選定の理由

近所にムスリムが多く居住しており、コミュニティ・センターやモスクとして良い立地であったことから。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）：15~20 人

金曜（土曜）礼拝者数：100ー130 人（金曜）20ー30 人（日曜）

うち日本人：無し

固定メンバー：15ー20％

流動層：80ー85％

＊備考：地域の方

国籍構成

スリランカ（65ー70％）、インドネシア（10％、研修生・専門学校生など）、インド、パキスタン

おおよその滞在資格構成

日本人の配偶者、留学、研修

職業構成

自営業、学生、研修生

8.バーブル・イスラム・モスク（第 1 回調査日　2005 年 8 月 26 日）

1.基礎情報

正式名称

日本語名：バーブル・イスラム・モスク

外国語名：Bab-Ul-Islam Mosque

住所

〒323-0827

栃木県小山市大字神鳥谷

連絡先

HP:http://en.icoj.org/

備考：ICOJ のホームページ

Fig.1　モスク全景

Fig.2　礼拝室 1

Fig.3　礼拝室 2

Fig.4　礼拝室脇に設置された本棚

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2005 年 3 月

設立の経緯

小山を中心として、周辺にムスリムが多数居住している。以前、近くのアパートをムサッラーとして利用し、金曜礼拝をおこなっていた。礼拝時には 30 人程が集まっていた。2005 年の 3 月に現在の土地・建物を買い取った。

宗教法人認可の有無

申請予定。名前は「バーブル・イスラム・モスク」

宗派・系統

所属母団体

ICOJ（イスラミック・サークル・オブ・ジャパン）

組織形態

イマーム：毎週変わる（週末に来る礼拝メンバーの中から交代制で、年長者、教養のある人、勉強している人が担当する）。

アミール：ICOJ のトップの人。当モスクにはいない

備考：プログラムの決定などに際して、多数決の結果をアミールが（最終的に）決定する。今の時点ではイマームの選考に変化は無いが、今後のニーズにより決めて行くかもしれない。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額

上記込みで 4000 万円

名義

NA

設立に至る費用工面

個人：栃木、群馬、埼玉、東京、名古屋の個人。

大半は栃木と近郊の個人からの寄付　。

団体：他の団体を通じたサポートはなし。

どのように出資を呼びかけたか：ICOJ の出版物を通じて。口頭。

出資団体の有無

無し

出資団体の詳細

無し

モスク維持費捻出方法

個人の寄付

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：鉄筋

建坪：520 坪。建物 200 坪

部屋数：9 部屋

階数：2 階建て

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

金曜、土曜は集団礼拝（金曜は昼、土曜は夜）。平日は誰が来ても自由。但し週末は集団礼拝がある。

共有財（耐久消費財など）

エアコン（1 台）、冷蔵庫（1 台）、ガスコンロ、流し台（ガス・水道不通のため以上２つはまだ使用出来ない状態）、扇風機（19 台）、礼拝用のスピーカー（2 個）、本棚、本、コーラン

「場」と「機能」充実度

1 階　駐車場と女性・子供用礼拝スペース兼調理場

2 階　礼拝スペース（2 部屋）、多目的スペース、トイレ、水場

＊備考：改装中ということで未使用の部屋もあり。

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝（毎日）

②集団礼拝（金・土）

＊備考：その他、今後のニーズにより考慮していくつもり。

土地選定の理由

近所にムスリムが多数居住しているので。以前は近所のアパートをムサッラーとして利用、或いは館林まで行っていた。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）

把握していない

金曜（土曜）礼拝者数：5ー60 人（金曜）40ー50 人（土曜）

うち日本人：1、2 人（たまに訪れる程度）

固定メンバー：70%

流動層：30%

国籍構成

パキスタン（70%）、バングラデシュ（15%）、スリランカ、マレーシア、インドネシア、ビルマ

おおよその滞在資格構成

NA

職業構成

パキスタン人：会社員、自営業（中古車業者やハラール・ショップ経営）が半々．バングラデシュ人は会社員、スリランカ人は自営業（中古車業者）、マレーシア、インドネシア、ミャンマー人は学生や会社員（研修生）が多い。

9.渚ムサッラー（第 1 回調査日　2006 年 3 月 11 日）

＊現在は移転

1.基礎情報

正式名称

日本語名：渚モスク

外国語名：同上

住所

〒390-0841

長野県松本市渚

Fig.1　モスク全景

Fig.2　1 階礼拝室

Fig.3　2 階礼拝室

Fig.4　共同購入したハラール食品

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2004 年

設立の経緯

以前（2003）は別の場所で活動していた。ムサッラーとして使う上で、貸し主とトラブルになり、2004 年に現在の場所に移転した。現在（2005 年当時）は賃貸であるが、（別の物件も視野に入れてはいるが）購入したいと考えている。

宗教法人認可の有無

無し

宗派・系統

スンニ派。しかし宗派に関係なく誰でも礼拝可

所属母団体

渚ムサッラーとして所属しているものはないが、タブリーギー・ジャマーアトの活動が盛んとのこと。

組織形態

リーダーである S 氏がアミール（会議：マシュワラで決定）。小さな会議は毎日（イシャーの後）行っている。イードルフィトル等のイベント時など。必要とされる時に大きな会議を開いている。任期は未定（次のイードルフィトルの時まで）。先日、インドネシアからタブリーギ・ジャマーアトの活動を行うムスリムが来日し、暫定的にイマーム、アミールを行っていた。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地（大家）

建物

借家：7 万円／月

＊備考：大屋と購入するため交渉。購入するには全体で 2000 万円であるという。

名義

賃貸契約：B 氏

設立に至る費用工面

個人：ムスリムからの寄付。設立の初期には新安城など他のモスクのムスリム（個人）から援助があった。

団体：無し

どのように出資を呼びかけたか：松本周辺のムスリムに口コミで。新安城モスクなど、各地に行ったときにも同様に出資を呼びかけた。

出資団体の有無

無し

出資団体の詳細

無し

モスク維持費捻出方法

個人の寄付。金曜の礼拝時に呼びかけ。金額は自由。

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：木造

建坪：199.92 ㎡

部屋数：１階３部屋、２階１部屋

階数：2 階建て

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

24 時間（誰でも、いつでも、宿泊も可）

共有財（耐久消費財など）

ストーブ、布団、冷蔵庫、冷凍庫（3、一つは新安城のムスリムからもらった）、炊飯器、調理具、食器、扇風機、マイク、スピーカー、洗濯機、掃除機、ミンバル（3 階）、電気カーペット、毛布、本棚、本（コーラン、サハーバ物語、法律、インドネシア語、ウルドゥー語）、時計、絨毯

＊備考１：備品は研修から帰る人からもらったり、寄付による。

＊備考２：ハラール食品を共同購入し、ムサッラー内に保存している。

「場」と「機能」充実度

1 階：食堂（宿泊スペース兼）、ハラール・ショップ、女性・子供のための礼拝室（金曜、イードルフィトル、アドハーにしか使われていない）、風呂、トイレ、イードルフィトル、イードルアドハーに使う部屋（広いが寒いので礼拝には 2 階を使う）

2 階：礼拝スペース

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝（毎日）

＊備考：大抵はイシャー（皆が来れる時に）

②ターリーム（毎日）

＊備考：イシャーの後に

③マシュワラ（毎日）

④金曜礼拝（週 1 回）

⑤土曜礼拝（週 1 回）

⑥イードルフィトル（年 1 回）

⑦イードルアドハー（年 1 回）

⑧ラマダン時イティカーフ（ラマダン時）

⑨タラウィー（ラマダン時の特別なお祈り、イシャーの後に行う）

⑩食事（土曜）

⑪勉強会（月 1 回）

＊備考：塩尻、岡谷、甲府、下諏訪からムスリムが訪れる

⑫ダルセクルァーン（日曜夕方）

⑬バヤーン（不定期）

＊備考：ジャマーアトが多いとき

土地選定の理由

駅近く、松本駅にも近い（徒歩 10ー15 分）。これが一番の決め手。選定対象が 2 つあり、そのうちマシュワラ等を行うのに適した現在の場所を選択。大家も理解のある人だった。

備考：近所付き合いについて。イードルフィトルの時など、隣家の住民に駐車場を時々貸してもらっているため、お礼に隣家を皆で掃除・料理のおすそ分けなどをしている。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）：2ー3 人（一日あたり）

金曜（土曜）礼拝者数：約 10 人、5ー10 人

うち日本人：3 人（女性）イードルフィトルには 5ー10 人、金曜には 2 人

固定メンバー：50%

流動層：50%

国籍構成

インドネシア（80%）、パキスタン（20%）、エジプト１人（日本の企業に就職）

おおよその滞在資格構成

インドネシア：学生・研修、パキスタン：日本人の配偶者と結婚・永住

職業構成

学生、研修生、自営業（自動車関係・・・パキスタン人）

10.ビラールモスク　ナガノ（第 1 回調査日　2006 年 3 月 12 日）

＊現在は移転

1.基礎情報

正式名称

日本語名：ビラールモスク　ナガノ

外国語名：Bilal Mosque Nagano

住所

〒389-0505

東御市和王子平

Fig.1　モスク全景（2 階部分がモスク）

Fig.2　礼拝室

Fig.3　礼拝室に設置された本棚

Fig.4　モスク裏手の中古車取扱店

2.モスク自体に関する項目

基礎情報

設立年

1998 年 11 月

設立の経緯

以前は伊勢崎モスクに礼拝に行っていたが、長野にもムスリムが居住しているため、利便性などを考慮し、自分たちのモスクを設立することを計画した。1998 年に現在の場所に設立した。

宗教法人認可の有無

無し。あと 1 年で認可が下りる（既に申請済み：2006 年現在）。

宗派・系統

無し

所属母団体

無し。

組織形態

専従のイマームはいない。数人で持ち回り担当している。代表はおらず、何かを決定する時は会議にて決定。ほぼ金曜日。一度、誰かをイマームに決めようという話しも出たが、特別問題無いので現在のまま。

2-2.土地・建物の情報

土地

建物

借家：7 万円／月

名義

建物：契約者 O 氏（管理は出来る人、日常的に来れる人が行う）

設立に至る費用工面

個人:個人の寄付。

団体：無し

どのように出資を呼びかけたか：長野市など、近隣のムスリムからの寄付

＊備考：当初、敷金、礼金を一度に払えなかったので大屋と相談し、家賃にプラスして、10 万円を毎月払った。

出資団体の有無

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

金曜のジュムアの礼拝後にサダカの呼びかけ。金額は自由。寄付用のボックスを入れる予定。

モスクの規模（建物）

建築形態

フロア

様式：鉄筋

延べ床面積：約 20 畳

部屋数：1 部屋

フロア数：1 フロア

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

24 時間。礼拝不可

共有財（耐久消費財など）

（元からあった）エアコン（1 台）、本棚（2 個）、（元からあった、ウドゥーに使う）シンク（1 つ）、ファン（2 基）、掃除機、本（（帰国する人からの寄付）、アラビア語、ウルドゥー語、インドネシア語、タイ語、ベンガル語、日本語）

「場」と「機能」充実度

トイレ（ウドゥー）、勉強、食事、礼拝スペース

モスクが行っている活動

①ジュムア（週 1 回）

②イードルフィトル（年 1 回）

③イードルアドハー（年 1 回）

④結婚（不定期）

⑤葬儀（亡くなった人のための礼拝）（不定期）

⑥マシュワラ（毎週金曜日）

土地選定の理由

礼拝に訪れるムスリムが経営する会社に隣接している。礼拝スペースが入っている建物と、会社の建物の大屋が同じであり、交渉が円滑に進んだ。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）

金曜（土曜）礼拝者数

うち日本人

固定メンバー

流動層

国籍構成

パキスタン、スリランカ

おおよその滞在資格構成

職業構成

自営業（中古車販売業、解体業）

11.新潟モスク(第 1 回調査日　2006 年 8 月 28 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：イスラミック文化センター新潟（登記上・法人申請の名称）

外国語名：MADANI MOSQUE 新潟（現在のモスク名）

住所

〒950-3101

新潟県新潟市北区太郎代

Fig.1　モスク外観
（右手前のプレハブが礼拝室）

Fig.2　モスク遠景
（最寄バス停より撮影）

Fig.3　モスク入り口
（設立にあたり外壁が作られ、各所に植樹も行っている）

Fig.4　モスク内駐車スペース
（現在の空き地には新たなモスクを建設予定）

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2002 年

設立の経緯

モスク設立以前はパキスタン人の事務所のプレハブをムサッラーにして、週に 1 回、金曜日のジュムアだけ集まっていた。しかしスペース、施設ともに不十分なうえに集まる人の数も増加したため、2002 年 12 月に現在の土地と建物を購入した。

備考 1 : 中古車販売の取り引き相手国のロシアとの港が近いという地理的理由により、パキスタン人中古車販売業者の数が増加したことが背景にある。現在新潟にはおよそ 150 社のパキスタン人経営の中古車販売会社がある。

備考 2 : 新潟県の中古車販売業者は 8 割がパキスタン人。毎月の礼拝時間のテーブルタイム表はインターネットからダウンロードした後で、パキスタン人業者たちに FAX で一斉送信される。

宗教法人認可の有無

新潟県に認可申請中。申請済み。すでに 2 年半の活動実績報告を提出している。申請時の名称は「イスラミック文化センター新潟」で提出している。

宗派・系統

宗派は無関係。

所属母団体

なし

組織形態

イマーム：金曜礼拝のスピーチを担当するのは、アムジャド氏を含めた 3 人が主である。ボランティアで誰でも役割を担う可能性はあるが、イスラームに対する教養のある人が行う。

アミール：タブリーギー・ジャマーアトの参加者が 1 ヶ月ごとに持ち回りで交代してつとめる。タブリーギー・ジャマーアトの参加者のアテンドを行う。

合議制：マシュワラという形態をとっている。ファジュルの後に毎日行い、スピーチの役回りやモスク内の水撒き、礼拝時間の変更などの決定を行う。また 1 ヶ月に 1 回、マシュワラでイマームを決定する。

理事会と理事長：理事長（チェアマン）1 人と理事 6 人からなる理事会が重要な事柄を決定する。建物のメンテナンス、登記やモスクについての全てを取り扱う。理事会は議事録の作成も行い、年に 1 度の選挙を行う。信望の厚い人が選ばれる。選挙の方法は秘密投票。

備考：組織の形態として、理事会で決定した事柄がマシュワラに伝わる。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額

土地･･･不明

建物･･･250 万円

名義

土地・建物の名義：4 人の個人。

＊備考 1：「皆のモスク」ではあるが、登記上は 4 人であるという。

＊備考 2：4 人の中には理事会のメンバーもいるが、理事長は入っていない。

設立に至る費用工面

個人：個人（新潟県内）

団体：無し

どのように出資を呼びかけたか：新潟居住のムスリムから 100%集めた。他県からは募らず、購入の数年前から積み立てていた。

資金の呼び掛け：①当時ムサッラーに来ていた人たちに、口頭で呼びかける。

②ムサッラーに来ていない人に口コミで伝える。

③パキスタン人中古車販売組合に FAX で一斉送信。

備考：パキスタン人の社長が多い。社員もいる。

出資団体の有無

出資団体の詳細

無し

モスク維持費捻出方法

毎週金曜日の寄付で 100%維持。寄付の額は決まっていないので自由。モスク設立前のムサッラー時代から変わっていない。光熱費は寄付でまかなわれており、毎週金曜日当日に寄付を銀行口座に入れ、自動引き落としを利用している。銀行口座は理事長が管理しており、銀行口座の名義はモスク名義となっている。

モスクの規模（建物）

建築形態

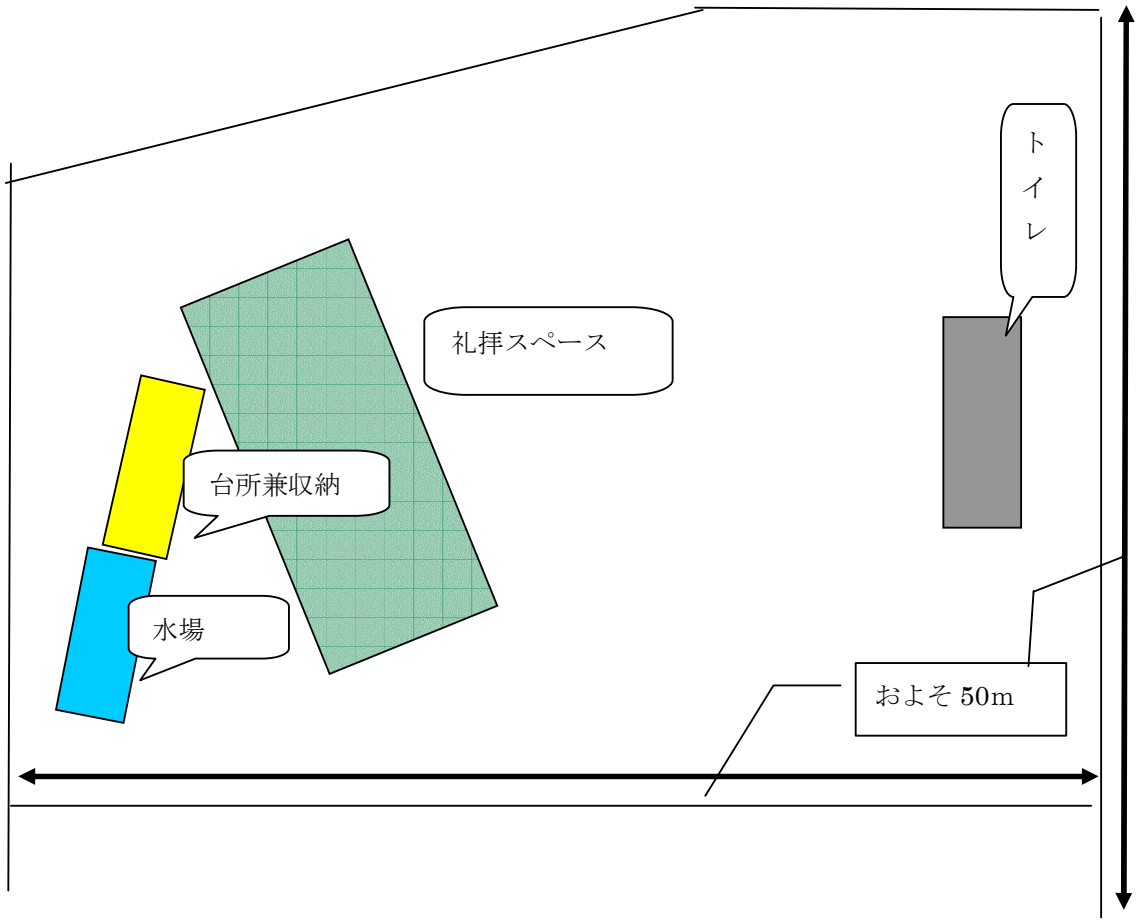
一戸建て

様式：プレハブ

建坪：およそ 2500 平米（土地）、およそ 25×15mの 675 平米（建物）

部屋数：1

階数：1 階建て



3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

ファジュルからイシャーまで開いている。カギは所定のボックスに入れて管理しており、最後に部屋を出る人がカギを管理している。

共有財（耐久消費財など）

①礼拝スペース

ミンバル、本棚×3、コーラン、その他の書籍、扇風機、エアコン×4 台、時計、カーペット、礼拝時間計、机、椅子×1、スピーカー、ホワイトボード、下駄箱、ペーパータオル（箱 2 つ）、帽子をまとめて入れるカゴ×2、屋外にハロゲンヒーター×2

②調理場／収納スペース

流し台、ガス台、冷蔵庫、炊飯ジャー、電子レンジ、棚、布団、鍋、ストーブ、ティッシュペーパー（箱多数）、紙コップ、紙皿、ゴトク、マグカップ（多数）、大型のガスボンベ×5、ほうき、大形扇風機、

③清めのためのスペース

ゴミ箱×2、ペーパータオル、ストゥール×8、

④その他

植木（水やりなどの役割分担がある）

「場」と「機能」充実度

礼拝室、ウドゥーのための水場、調理場、収納スペース、宿泊（タブリーギ・ジャマーアト用）、トイレ、駐車場

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝：（毎日）

②金曜礼拝（週 1 回）

＊備考：昼に集まり、アスル→ガシュト（タブリーギ・ジャマーアトのみ参加）→マグリブ→タアリーム（15ー30 分）。食事は無し。

③新潟オークション会場での金曜礼拝（週 1 回）

＊備考：2，3 ヶ月ほど前から始めた（調査時点は 2005 年 8 月 28 日）。毎週金曜日の午前に開かれる中古車のオークション会場に出かけると、モスクから離れているために礼拝の時間に間に合わない。従って会場を借りて礼拝を行っている。スピーチ役は K 氏。

④新潟大学内の 2 つのムサッラーでの礼拝

＊備考：活動のために十分な時間を取れないので、礼拝が（活動の）メイン。

土地選定の理由

バイパス道路の近くであること、近隣にパキスタン人の中古車業者が多いこと、新潟駅の近くであることなどの案を検討した結果､近隣のパキスタン人業者のアクセシビリティを重視して、バイパス近くで業者の多い、現在の土地を購入した。

＊備考:新しい礼拝スペースの建設を予定している｡現在は登記を始める計画段階。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）：5~30 人

金曜（土曜）礼拝者数：100 人

新潟オークション会場：100 人

新潟大学内のムサッラーでも行っている。

＊備考：男性ムスリムのみ。配偶者のムスリムは別の場所で行っている。

固定メンバー：80%（新潟在住）

流動層：20%

国籍構成

パキスタン（95%）、バングラデシュ（4ー5%）、カメルーン、エジプト（大学の留学生）など

おおよその滞在資格構成

日本の配偶者と結婚（90%）、その他

職業構成

経営者、社員、学生（時々）

12.名古屋モスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 10 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：名古屋モスク

住所

〒453－0041

愛知県名古屋市中村区本陣通 2 丁目 26-7

連絡先

HP：http://nagoyamosque.com/

Fig.1　モスク全景

Fig.2　名古屋モスク入り口

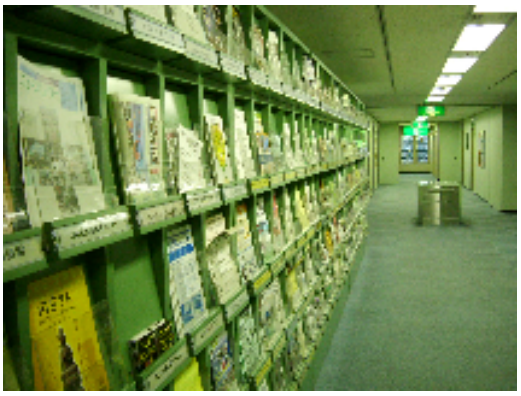


Fig.3　国際センターのリーフレット置き場

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

1998 年

設立の経緯

第二次大戦前に今池に名古屋モスクという名でモスクがあったが、戦火で消失。本来は、当時モスクがあったその地(名大近く)にモスクを建造したかった(写真が残っている)。しかしながら、色々探し回るも、当時の土地情報を特定することが出来ず断念。また地価の関係で現在の場所に。条件は、広い道に面する必要があり（住宅地でのトラブルを避けるため。張り紙で注意を促している）、キブラの方向も重要であった。元来古い建物があったが、建て直した。名大の近くにはムサッラーが既にあった(二年ごとに 3 回転居)。今池の事務所ビル内に 6 年間借りていた。80 年代に、名大の学生が作った。

名古屋イスラム協会(学生が中心となり設立。現在はこの呼称は利用されていない。)→名古屋モスク(宗教法人名も)

現在のモスクを東京ジャーミーのようなモスクにしたいと考えている（手狭ということもある）。チェアマンによるとビル形式のモスクは日本特有とのこと。

宗教法人認可の有無

有。名称は名古屋モスク。

宗派・系統

宗派にこだわりはない。イスラームの信者であればよい。シーア派の方も訪れる。

所属母団体

無し。名古屋モスクとして活動している。

組織形態

Director6 人(理事)、Chairman1 人(理事長)（任期：7 年）

Imam（やりたい気持ちが重要とのこと。任期はイマームの都合により不定期。以前は学生が週代わりで交替で行っていた。出来ることならば日本人に専属の形でイマームになってもらいたい（働きかけは東京などにしている）。ただしまだ決まっていない。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額（建設費）

土地＋建物　7000 万円

名義

土地の名義：名古屋モスク

建物の名義：名古屋モスク

設立に至る費用工面

個人：個人の寄付

団体：無し

どのように呼びかけを行ったか：名古屋近辺のみで、政府などはなし。

出資団体の有無

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

寄付による。

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：鉄筋コンクリート

土地：18 坪　建物：14 坪

階数：4 階建て＋屋上

部屋数：4 部屋(1:オフィス、2：礼拝所(女性用)、3：第一礼拝所、4：礼拝所兼教室、屋上：礼拝にも使用される)

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

午前 10 時からイシャー後まで開錠している。ファジュルも数人の責任者が鍵を所有しており、礼拝に訪れる。その時開錠されるのでお祈りは可能。但し礼拝終了後施錠される。防犯上の理由(過去 3 回泥棒が入っている)も有り、鍵の管理などは非常に厳しい。宿泊も不可。

共有財（耐久消費財など）

各フロアに業務用(ビル用)エアコン、冷蔵庫、PC、プリンタ複合機、電話、FAX、会議用小机（2 台)、オフィス仕様の机（2 台)、椅子（16 台)、コンロ(2 台)、内線電話、書籍多数(アラビア語、日本語、英語、その他。一階には貸し出し用本棚があり日本語書籍、カセット、ビデオなどを借りることが出来る。)、ポット、館内放送設備(アザーンやイマームの講話のために利用)、屋外スピーカー（屋上）

「場」と「機能」充実度

ウドゥーのための洗い場（1 階：男性用、2 階：女性用)、ミンバル（3 階)、礼拝所（3 フロア＋屋上)、トイレは 1 階に男性用、2 階に女性用。宿泊不可（イマームも通い)、ラマダン中はお篭もり可能。駐車場はないが、近隣にコインパーキング多数。

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝：(毎日）

②パンフレット無料配布：(随時、名古屋駅近くの国際センタービル 3 階でも冊子の無料配布を行っている）

③子供の勉強会：(毎日。男女）

④ラマダンあけのイード：(年 2 回、別のあいているホールにて）→ラマダン時は日没後、毎日食事が用意される。

⑤金曜礼拝：(週 1 回）

⑥土曜礼拝：(週 1 回）

⑦土曜日にマグリブからイシャー開始前まで説教：(週一）→その後食事会（モスクには大規模な台所はなく、食事は近くの店舗で作っている。

⑧入信の儀式（随時、入信証明書を発行）

⑨結婚式（随時、ムスリムなら可、日本人が対象の時は婚姻届が必要、外国人はパスポートなど証明書があれば OK）→結婚式では食事は出さない。いわゆるニカー(イスラーム式結婚)で、結婚証明書の発行を行っている。

⑩女性のための勉強会：(毎月最初の土曜日）

⑪葬送儀礼：(随時、ウドゥーのための場所に簀を敷き、清める。遺体は、山梨の塩山あるいは、本国への空輸。パキスタンへは援助があるようで、比較的安くなっているらしい。日本人女性のなかにも外国への埋葬を望む人が過去に 2 人ほどいた。）→パンフレットあり（アラビア語）

土地選定の理由

設立の経緯を参照。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）：4~10 人程度

金曜（土曜）礼拝：200～350 人

うち日本人男性：2~3 人、女性：4~5 人

→女性の礼拝者は 20~30 人来ていたが、男性礼拝者の増加に伴い、減少。2 階の女性用礼拝室も仕切りで区切り、男性が礼拝を行うようになったことで、女性のプライベートスペースが減ったことが主たる理由。広いモスクを作ることが出来れば最も良いが、礼拝室への入り口を別に作れればよいと考えている。しかし、現実問題として難しいと考えている。

国籍構成

多様。インドネシア、マレーシアの学生も多い。アフリカ（ナイジェリア、ウガンダ、スーダン等）、パキスタン、ネパール、インド、ビルマ、スリランカ、バングラディシュ→一番多い国は不明（礼拝後は様々な言語が飛び交っている）

おおよその滞在資格構成

留学、日本人の配偶者等など

職業構成

留学生が多い。会社員、自営業の経営者(貿易業、ハラール・ショップ、レストランなど)

13.岐阜ファーティフモスク(第 1 回調査日　2005 年 8 月 12 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：岐阜ファーティフモスク

外国語名：Gifu Fatih Mosque

住所

〒504-0941

岐阜県各務原市三井町

Fig.1　モスク全景

Fig.2　モスク裏手に設置された
ティールーム

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2002 年

設立の経緯

モスクを設立する以前は岐阜の賃貸の部屋であったが、2～3 年前に現在の土地へ移る。イマームによると、モスクというよりはムサッラーであるとの意識のようである。岐阜モスクの中心はトルコ人。名古屋近辺（名古屋・岐阜・大垣・豊橋等）には 3000 人程度のトルコ人が在住。トルコ人の中には 1 時間以上かけて岐阜モスクにやって来る者もいる。また、訪問日の前日（2005 年 8 月 11 日）には約 120 人のトルコ人が訪れたとのこと。岐阜モスクには多くのトルコ人が訪れるが、その際には事前にイマーム自身が地元の警察に連絡をしている。地元との関係はそれ程悪いという訳ではないらしいが、英国のテロ事件の際には警察関係者がモスクを訪問した。

宗教法人認可の有無

なし。 名称は岐阜ファーティフモスク。

宗派・系統

NA

所属母団体

無し。NY のモスク（ムスリム・アソシエーション）と兄弟関係との事。人的交流はまだなく、メールのやり取りだが、 まもなく NY のイマームが来日する計画があるとの事。

組織形態

不明

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額

土地＋建物　1400 万円（競売物件を裁判所より購入）

名義

土地：NA

建物：NA

設立に至る費用工面

中部・東海地方を中心とするパキスタン人、スリランカ人、トルコ人の寄付。

出資団体の有無

出資団体の詳細

モスク維持費捻出方法

寄付から。（寄付ボックスが設置されていたが、それ程多額の寄付は無く、半年に一度開封し、そこから光熱費、税金、修繕費を捻出。モスク自体の経営は金銭的には厳しいとのこと。）

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：コンテナ、プレハブ

建坪：不明

部屋数：7 部屋（1:礼拝所、2:女性用礼拝所、3:ハラール・ショップ、4:男性用ウドゥー用水場、5:女性用ウドゥー用水場、6:休憩室（談話室兼食事所）7:事務所）

階数：2 階建て

モスクは以前のカラオケボックスの面影を残す。建物が建っているというのではなく、いくつかのコンテナが置かれているという状態であった。建坪、敷地面積いずれも不明。コンテナの中を区切ったような形式の 7 つの部屋からなる。

また、まもなく遺体洗浄スペースの為のコンテナを入れたいとのことであった。

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

1 日 5 回の礼拝と金曜日、土曜日の礼拝。

モスクの鍵はいつでも開いているとのこと。

共有財（耐久消費財など）

①休憩所内

テレビ・クーラー・2 口コンロ・冷蔵庫・衛星放送機器・給水器・水道・ベンチ・机・トルココーヒーをいれる用具・缶ジュースは無料で提供

②礼拝所内

ミンバル・キブラ・本棚・クーラー・放送設備・扇風機・食事用の長い紙のロール

「場」と「機能」充実度

男性用礼拝スペース、女性用礼拝スペース、ハラール・ショップ、男性用ウドゥー用水場、女性用ウドゥー用水場、休憩室（談話室兼食事所）事務所）

モスクが行っている活動

毎日 5 回の礼拝：（毎日）

＊備考：勉強会等は実施していない。

土地選定の理由

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

金曜（土曜）礼拝者数：

金曜日：20 人程度（モスクに来るのは現場労働者が主であるため、雨天の場合は 45 人程度）

土曜日：40 人程度

うち日本人：40 人程度（日本人は女性が主で、男性はめったに来ない）。

＊備考；イードなどモスクの催しには 500 人程度集まる。

国籍構成

パキスタン人、スリランカ人、トルコ人（一番多い国はトルコ）

おおよその滞在資格構成

NA

職業構成

イマームによるとムスリム達は国籍によって従事している職業が異なる。パキスタン人・スリランカ人はカービジネス、トルコ人は解体業とのこと。

14.富山モスク(第 1 回調査日 2005 年 8 月 13 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：富山モスク

外国語名：TOYAMA　MOSQUE

住所

〒934-0044

富山県射水市殿村

Fig.1　モスク全景

Fig.2　コンビニ時代の看板を撤去し、モスク名、およびアラビア語と日本語でシャハーダを記している

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

1999 年

設立の経緯

1996 年頃､現在のモスクの近辺にムサッラーがあり､そこで礼拝を行っていた。1999 年に現在の位置に移る。広く施設が充実しており、雪が降る地域のため幹線道路に面していることが選定の条件だった。いくつかの物件を不動産屋を訪ねて探した結果、国道 8 号線沿いに、元はコンビニだった物件を見つけ購入した。国道 8 号線沿いには、パキスタン人のほかインド人などが経営する中古車を取り扱う店が並んでいる。富山モスクはそこから程近いところに位置しており、昼間には多くのムスリムが礼拝に訪れることが出来る。

中古車業者の取り扱う車は主にロシア人との間で取引されることは良く知られているが、富山モスクにはロシア人ムスリムも礼拝に訪れる。1999 年に物件を買い取った時には、まだコンビニの施設が残っており、業務用冷蔵庫などが置かれていたという。しかし 2004 年には業者に依頼し、モスクの改修工事を行った。業務用冷蔵庫などを撤去し、礼拝スペースを拡張、ミンバルやキブラを設置した。

ちなみにこのモスクは、キブラの位置はさほど物件購入の際に考慮に入れていなかったという。新安城モスクも建物の構造がメッカの方向を向いているわけではなく、礼拝をする際には、建物の構造を斜めに横切る形で人が並び礼拝を行っている。富山モスクは、物件購入後、メッカの方角を調べると、長方形の建物の、短辺の一つが、メッカの方角を向いていることが分かったということであった。

宗教法人認可の有無

申請中

宗派・系統

特になし。

所属母団体

なし

組織形態

イマーム

マネージャー(数人)

マシュワラあり

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地

建物

持ち家

購入額

NA

名義

数名で取得している。

設立に至る費用工面

地元在住のムスリムに寄付を募った。

出資団体の有無

無し

出資団体の詳細

無し

モスク維持費捻出方法

寄付による。

モスクの規模(建物)

建築形態

一戸建て

様式： 鉄筋（元コンビニエンスストア）

建坪：不明

部屋数：2 部屋

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝(使用)可能日時・時間帯

24 時間

共有財(耐久消費財など)

冷蔵庫、扇風機、本棚、冷房設備、布団

「場」と「機能」充実度

礼拝スペース兼宿泊施設、ウドゥー用の水場、駐車場(モスクの前：36 台、近隣の 200 坪のモスク専用駐車場：約 100 台)、台所（食事を供するための大鍋など）

モスクが行っている活動

①一日 5 回の礼拝：（毎日）

②子供のコーラン・アラビア語教室：毎日

③葬式

④ニカー(結婚証明)

⑤金曜日：マシュワラ→ズフル→ターリーム→食事→ガシュト(希望者のみ)→マグリブ→バヤーン→イシャー

土地選定の理由

設立の経緯を参照。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）：30~50 人

金曜礼拝者数：200 人～300 人

＊備考：女性は別の場所でマシュワラやタアリームを行っている。その内容はマネージャーに伝えられる。

国籍構成

パキスタン、スリランカ、ロシア、インドネシア、マレーシアなど

おおよその滞在資格構成

日本人の配偶者等、留学など

職業構成

中古車輸出業、学生

15.松山イスラーム文化センター(第 1 回調査日　2005 年 8 月 20 日)

1.基礎情報

正式名称

日本語名：松山イスラーム文化センター

外国語名：Matsuyama Islamic Cultural Center(MICC)

＊備考：この呼称は、二つの意味合いを有している。一つは、集会の場としての「モスクそのもの」を指し、もう一つは、MICC という「集団」を指す。愛媛大学の学生が中心となって運営しているため、礼拝の場は、モスクのみに限られることは無い。金曜日の集団礼拝は、現在は使われていない大学の教室(留学生センターの相談室)を使用しているが、集まるメンバーは場としての MICC に集う人々である。

住所

〒790－0845

愛媛県道後今市

Fig.1　モスク全景

Fig.2　礼拝室

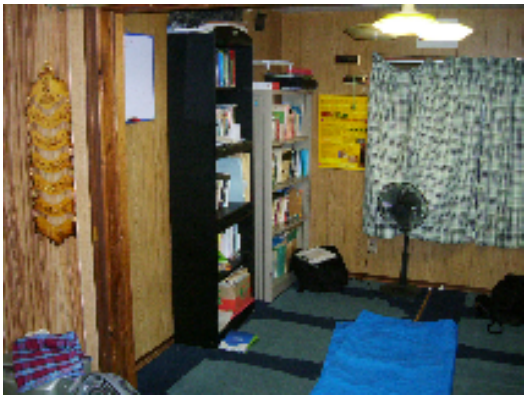


Fig.3　礼拝室

Fig.4　共同購入したハラール食品用冷蔵庫

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

1994 年

設立の経緯

元々ムスリムの家族が住んでおり、そこに人が集まり始め、家族が転居した後、ムスリムの学生が 2 人入居した。現在は 2 部屋を礼拝室にあてている。愛媛大学の学生が入れ替わりつつも、住み続けている。建物は非常に古く、老朽化が進んでいるが、現在は 1 人が入居している。また、たとえ入居者がいなくなっても、モスクとして維持をしていくとのこと。但し、現在も不定期ではあるが、新たな礼拝の場を探している。土地選定の条件としては、家賃はもとより、構成メンバーの殆どが愛媛大学の学生であるため、大学に近い場所に位置していることが挙げられていた。

宗教法人認可の有無

なし

宗派・系統

メンバーの殆どはスンニ派だが、シーア派の方も 1 人金曜日にはお祈りに訪れるとのことであった。

所属母団体

なし

組織形態

イマーム：お祈りを先頭にたって行う人ならば、誰もがイマームになりうる。イードのお祈りなどは、年配の方、あるいはイスラームに造詣の深い方にやってもらっている。

合議制：定期・不定期両方の話し合いを開いており、運営の方針などが決定される。具体的には年 1 回会議を開き、そこではモスクを運営する人物が決定される。リーダー、副リーダーのほか、ハラール食品の購入、集団礼拝のスピーカーのスケジュールを決定などに携わる「秘書」のポストが存在する。また、ラマダン前やイード前には、食事やイマームを誰が行うかなどの役割決定会議が開かれる。

不定期なものとしては、何かあったときには話し合いがもたれる。現在はモスクの新しい場所の選定についての話し合いがもたれているとのこと。また、新規の入居者の決定も行われる。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地（大家）

建物

借家（借り賃：¥50000/月）

名義

借主：N 氏

設立に至る費用工面

ムサッラーのため設立の経緯および維持費捻出方法を参照。

出資団体の有無

出資団体の詳細

モスクの維持費捻出方法

以前は、5 万円の家賃を三人で分割して負担していた。現在入居者が 1 人のため、二人分の金額を MICC でサポートしている。また、一年当たり 5000 円の寄付と追加の任意によるサダカによって維持費を捻出している。これらのお金は、家賃や光熱費のほか、ハラール食品の購入資金に充てられている。仕入れたハラール食品は、少しのマージンを加えて販売し、その利潤もまたモスクの維持費に回している。

モスクの規模（建物）

建築形態

一戸建て

様式：木造

建坪(平米)：約 200 ㎡

部屋数：5 部屋＋キッチン(うち礼拝スペースは 2 部屋。人数が多ければ 3 部屋)

階数：1 階建て

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝（使用）可能日時・時間帯

24 時間。最近は防犯のため鍵はかけるが、いつでも出入りは可能。

共有財（耐久消費財など）

本棚、書籍(インドネシア語、マレー語、ベンガル語、アラビア語、英語、日本語)、扇風機(2)、ストーブ(1)、ハラールミート保存用の冷凍庫(1)、装飾、ホワイトボード(勉強会の連絡とアラビア語の勉強用に使用されている)(1)、お祈りマット(1)

「場」と「機能」充実度

礼拝室（兼、勉強会の部屋・食事部屋・宿泊所）、ハラール食品販売スペース(玄関)、ウドゥーの場所(バスルーム)、キッチン（ラマダン時などに食事を作る）

モスクが行っている活動

①土曜の勉強会(週一)

＊備考：勉強会の内容は、最近はコーラン読みとその解釈が中心とのこと。場合によってはイスラームの行動規範の学習やハディース読みも行われることがある。

②一日 5 回の礼拝(毎日)

金曜日が大学の休日に当たる場合の集団礼拝(不定期)

＊備考：新居浜モスクに行くこともある

④年一回の会議

⑤ラマダン、イード前の役割決定会議

⑥不定期の会議(不定期)

⑦来客時のアテンド(不定期)

⑧ハラール食品販売(オンデマンド)⇒福岡のインドネシア人の方が経営するハラール・ショップにまとめて発注

土地選定の理由

大学に近いこと

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

金曜(土曜)礼拝者数： 20~30 人（金曜）10~20 人（土曜）

うち日本人　1~2 人(土曜)

固定メンバー：70%

流動層：30%

国籍構成

マレーシア(学部生多し)、インドネシア、バングラディシュ、エジプト、パキスタン、トルコ、アフリカ系

おおよその滞在資格構成

留学など

職業構成

学生(大学院生が多く、家族連れの場合もある)

16.新居浜マスジッド（第 1 回調査日　2005 年 8 月 21 日）

1.基礎情報

正式名称

日本語名：新居浜マスジッド

外国語名：Niihama Masjid

住所

〒792-0025

愛媛県新居浜市一宮町

連絡先

電話(代表)：0897-34-9191

e-mail：islam@mizar.freemail.ne.jp

HP：http://www2s.biglobe.ne.jp/~racket/

Fig.1　モスク全景（2 階部分がモスク）

Fig.2　礼拝室とミフラーブ

Fig.3　礼拝室と本棚

Fig.4　ウドゥーのための水場

2.モスク自体に関する項目

2-1.基礎情報

設立年

2003 年 9 月 1 日

設立の経緯

以前から個人的な礼拝所があったため、移転を機にモスクを設立した(ドームが完成したのは 2004 年 8 月)。モスク設立にあたっては、宗教法人の取得および将来的にはムスリムのための墓地の取得も念頭においている。

宗教法人認可の有無

なし(1,2 年の間に取得したいと考えている。現在、香川および愛媛にモスクが存在するが、愛媛を先に申請する予定であるとのこと。

宗派・系統

なし

所属母団体

なし

組織形態

イマーム：H 氏、K 氏

合議制：H 氏、K 氏で合議を行いモスクの予定などを決定している。なお、モスク自体の管理は、H 氏を含む数名で行っているが、法人申請の際に任期等を決める予定とのこと。

2-2.土地・建物の情報

土地

所有地(購入費用：1500 万円)

建物

持ち家(購入費用：1500 万円+300 万円)

注：階下は店舗のため、土地･建物ともに、モスクである 2 階部分のみの価格として半分の 1500 万円として記入してある。

名義

H 氏

設立に至る費用工面

H 氏による。

モスク維持費捻出方法

現在モスクにかかる費用はH氏が支払っておられる。

モスクの規模(建物)

建築形態

一戸建て：様式　鉄筋

建坪：80(79)

部屋数：1部屋

階数：2階建て(2階部分がモスクにあたる)

3.モスクの「場」と「機能」に関する項目

礼拝(使用)可能日時・時間帯

H氏がいる時は常時礼拝可能(AM10:00~PM20:00)だが、事前に連絡すればいつでも可能とのこと。現在鍵は3人が所有している(国ごとに管理)。

共有財(耐久消費財など)

冷蔵庫、本棚(アラビア語・英語・マレー語・日本語)、テーブル、ソファー、キッチン用品、テレビ、布団、ホワイトボード、礼拝時計、ミフラーブ、ミンバル、カーペット、ミナレット、ドーム、間仕切り

＊備考：ゆくゆくは壁にスクリーンを設置するなどし、イスラームに関する展示場にしたいとのこと。

「場」と「機能」充実度

礼拝室(勉強会、会議、宿泊の場ともなる)、ウドゥーのための洗い場、風呂、トイレ、キッチン

＊生活できるものはそろっており、イベントなどにも対応している。ゆくゆくはイスラーム関連の展示を行う場ともなるとのこと。

モスクが行っている活動

①土曜の晩の勉強会(土曜日)

礼拝を行うとともに、少数でクルアーンを読む。常時6人の参加者がいる(男女別に行っている)。

②日曜日の勉強会(第二週の日曜日)

礼拝(ズフル)の礼拝後、勉強会を行っている。60人ほどの参加者がいる。

③イード(年二回)

毎回協議を行っており、イマーム、場所などを決定する。場所については、曜日、参加人数によって決定される。具体的には、平日ならばモスク、研修生などが所属する会社が休みをくれた場合には会社で行う(土日も)。また松山や高松と合同で行う事もある。

④キャンプ(年一回)

キャンプについては来年度に再開を予定している(前回の開催は 3 年前で、学習会や各種アクティビティなどが催された。神戸モスクからイマームも参加された)。これからは年 1 回くらい地域キャンプを開催したい(子供の教育の仕方や育児の役割配分などについて、繋がりがもてることが重要)とのこと。H 氏は、「外側」との連絡もさることながら、「内側(地域のムスリム・コミュニティ)」のネットワークを充実させることの重要性を強調されていた。

土地選定の理由

以前から浜中氏個人の礼拝スペースがあり、現在の土地への移転を機にモスクを設立した。

4.礼拝者に関する項目

規模

礼拝者人口

先週の礼拝者数（礼拝者数全体から金曜礼拝者を除いた数）：流動的

金曜(土曜)礼拝者数：5 人(少ないとき 1 人、多いとき 60 人)

日曜日：0~60 人

モスクの定員は 60 人で、新居浜近辺のムスリムは 200 人程。200 人が集まるときは松下寿の礼拝所にて。

固定メンバー：3%(6 人)

国籍構成

インドネシア、日本、マレーシア、エジプト、(トルコ)

おおまかな滞在資格構成

研修、留学

職業構成

社会人はインドネシア人のみ。

編者・執筆者・調査参加者一覧

編者

店田　廣文　　早稲田大学人間科学学術院教授

執筆者

岡井　宏文　　早稲田大学人間科学研究科博士課程

調査参加者　（各モスクの調査参加者は下記詳細のとおり）

石川　基樹　　早稲田大学人間科学研究科博士後期課程
岡井　宏文　　早稲田大学人間科学研究科博士後期課程
北爪　秀紀　　早稲田大学人間科学研究科修士課程修了
池端　宏之　　早稲田大学人間科学研究科博士後期課程

1. 浅草モスク	北爪　池端
2. 東京インドネシア共和国学校	北爪
3. 東京ジャーミイ	岡井　北爪　店田
4. マッキーマスジッド　トウキョウ	岡井　北爪
5. 伊勢崎モスク	岡井　北爪
6. クバモスク	岡井　北爪
7. 足利モスク	岡井
8. バーブル・イスラム・モスク	岡井　北爪
9. 渚モスク	岡井
10. ビラールモスク　ナガノ	岡井
11. 新潟モスク	岡井　北爪
12. 名古屋モスク	岡井　池端
13. 岐阜ファーティフモスク	岡井　池端
14. 富山モスク	岡井　店田
15. 松山イスラーム文化センター	岡井　石川　店田
16. 新居浜マスジッド	岡井　石川　店田

付記：
本調査記録は、平成 19~20 年度日本学術振興会科学研究費助成（基盤 C）・課題番号 19530476 による研究成果の一部である。